



## 霞立つ 春日の里の梅の花 山のあらしに 散りこすなゆめ

巻8-1437 大伴村上

霞が立ちこめている春日の里の梅の花よ、山おろしの風に散ってくれるな、決して。

### 東日本大震災を決して風化させない!

日ごとに春らしい暖かな日差しが大地に注がれています。この時期、三寒四温を繰り返す中で、日増しに春を感じる頃となっていますが、奈良における本当の春は、奈良東大寺二月堂で行われている「お水取り」の行事が終わらないと来ないと言われています。

この「お水取り」の名で知られる「修二会(しゆにえ)」は、752年に始まり、一度も途切れることなく今年で1275回目を迎えています。11人の練行衆が3月14日まで1日6回の法要を繰り返して本尊の十一観音に人々の罪を懺悔して幸せを祈ります。1日から始まった「お松明(たいまつ)」も14日まで毎日行われ、特に12日に行われる「籠(かご)松明」は最大級の松明で勇壮かつ華やかで、その火の粉を浴びると無病息災で過ごせると言われています。



この時期、幼稚園やこども園での卒園式、小中学校での卒業式があり、まさに「旅立ち」の季節となります。また、年度末ということから、一般の会社や役所、学校園では人事異動があり、ある意味「別れ」の季節でもあります。特に、卒園、卒業する子どもたちには新たな世界に夢と希望をもって大きく羽ばたいてほしいと思います。

ところで、3月11日(水)には、未曾有の東日本大震災が起こってから節目の15年を迎えます。ここ数日、マスクも様々な形でこの震災を取り上げています。私も5年前の令和2年度3月号の教育委員会だよりに自身が東京で経験した震度5強の文部科学省の講堂での様子、そのビルを出た直後の震度5の余震、そして新橋駅の大型ビジョンに映し出された黒く不気味な津波に飲み込まれた自動車や家屋、逃げ惑う人々の様子に声も出さず唖然とする中でリアルな映像に見入っていた様子を書きました。



また、令和6年9月号には、石巻市総務部震災伝承推進室主幹の高橋広子さんを教育講演会の講師としてお迎えし、高橋さん自身が荒れ狂う津波の中で一命を取り留めた経験と、津波と津波火災によって白壁が美しかった門脇小学校が一夜にして黒い校舎に変わってしまったこと、またその校舎を震災遺構として後世に残そうと必死の想いで携わってこられた様子、「人間とは何か。自然とは何か。そして生きるとは何か。」という問いに

対して深く見つめて来られた熱い想いをお話いただいた様子を書きました。

東日本大震災に限らず、どんな災害・事件であっても時の経過と共に世間の関心は薄まり、風化が叫ばれるようになります。東日本大震災以外にも能登半島地震等、地震は各地では起きていますし、ロシアとウクライナ、パレスチナとイスラエル、アメリカ、イスラエルとイランなど世界各地で戦争も起きています。私たちは毎日毎日、仕事や学習など、いろいろなことに向き合っており、がんばって生きています。そんな日々の渦の中で、1つの災害のことに想いを馳せ続けることはなかなかできていないことも仕方ないことだと思います。ただ、5年、10年、15年と節目の時は、マスクも何かと震災の教訓とともに防災・減災の必要性や学校等における防災教育については、様々な形で報道されていますし、決して風化させてはいけない事柄だと強く思っています。正直、私も全ての自然災害や事件に想いを馳せられているわけではないですが、東日本大震災だけは、この日に感じる想いは薄れるどころか年々深まっていくように感じています。その理由を考えた時、それはきっとこの未曾有の自然災害を東京で受けた体験がいつしか他人事ではなく「自分事」になってしまっているからかもしれません。それだけに、毎年各小学校区で行われている防災訓練や避難所設営訓練など、災害が起こったときに適切な対応ができるための防災教育を強く進めていかなければならないと感じています。



### 教育委員会関係団体の取組

#### いじめ防止標語の表彰式を行いました!

2月25日(水)に令和7年度のいじめ防止標語の表彰式を教育委員さんご臨席の中、さわやかホール4階の大会議室で行いました。

このいじめ防止標語の募集は、平成30年1月に広陵町いじめ防止基本方針が策定されたことを受け、いじめ防止啓発の一環として、令和元年から実施している取組です。今年度も11月に町内の小学校4年生、5年生、中学校2年生を対象に行いました。その結果、小学校4年生370点、5年生339点、中学校2年生317点、合計1026点の応募があり、その中から厳正な審査の結果、各学年の最優秀作品を1点ずつ選考させていただきました。

その最優秀作品の受賞者3人に私から受賞者一人一人に表彰状を授与させていただきました。

その後、私はあいさつの中で、毎年、広陵町の子どもたちが素晴らしい標語を考え



てもらっていること、このいじめ防止標語の表彰式が7回目を迎えたこと、いじめは絶対許してはならないこと、そして、いじめにあって苦しんで苦しんで亡くなってしまったいもうとのことを採り上げた松谷みよ子さんの絵本、「わたしのいもうと」を心を込めて読み、「こんな悲しいことは決してあってはいけない。だから、皆さんもいじめをなくすためのリーダーになってほしい。」というようなことを話しました。



受賞者の氏名と作品を下に記します。

真美ヶ丘第二小学校4年生 米田 雪乃 さん  
「悪口をいっしょに言い合う友は うその友」

広陵北小学校5年生 山中 はな さん  
「いじられて わらっているけど ないている」

広陵中学校2年生 徳永 彪斗 さん  
「いじめとは 人の心を消す力  
優しさとは 人の心を作る力」

### 市町村対抗子ども駅伝で、総合9位に！

第21回市町村対抗子ども駅伝大会が3月7日(土)に、檀原運動公園で開催されました。昨年の12月14日(日)に開催された町マラソン大会で選考された男女8人が駅伝の部とタイムトライアルに出場しました。1月中旬から毎週土曜日の午前中に監督をはじめ、コーチやスポーツ協会の皆さんの指導の下、馬見丘陵公園での練習を積み重ねてきました。当日は早朝より、吉村町長も駆けつけていただき、選手の皆さんに熱い激励の言葉をかけていただきました。私も「これまで支えていただいた、監督さんやスタッフの皆さん、家族の皆さんに感謝の想いと、タスキに一人一人の想いを込めてつないでいった先に結果が出ます。ガンバレ!」とメッセージを贈りました。この日は西風がきつくかなり冷え込んだ朝となりましたが、一人一人が1周1630mの距離に持てる力を精一杯発揮しての走りでした。



広陵町からは、保護者の皆さんをはじめ、応援に駆けつけた多くの人たちが疾走する子どもたち一人一人に惜しみない声援と大きな拍手をしていただきました。10時10分にスタートとなる号砲が鳴り、37市町村の第一走者となる子どもたちが一斉にスタートしました。そのような中、広陵町の第一走者は素晴らしい走りを見せ、1位でタスキをつないでくれました。その後、6位、9位、10位、9位とタスキをつなぎ最後まで同じ9位とな

るがんばりを見せてくれました。昨年の7位を上回る結果とはなりませんでした。が、これまで何かと予定がある中で、毎週、監督やコーチのご指導の下、練習に精一杯打ち込み、一つの成果を出したことは本当に頭が下がる想いでした。駅伝の部では、総合9位、町の部で3位となりました。また、タイムトライアルでは男子23位、女子9位と素晴らしい成績を収めてくれました。



### 世代間交流事業「広陵町魅力再発見ウォーク」

3月7日(土)10時から、社会教育委員会議の主催事業である世代間交流事業「広陵町魅力再発見ウォーク」を西小校区の赤部・大垣内の地域で開催しました。新たな世代間交流事業として一昨年からは始まり、今年で3回目となります。一昨年は北小校区の教行寺や大福寺公園、櫛玉神社を訪問し、昨年はイチゴ農園、ドッグスクール、百済寺を巡るウォークでした。

今年も、広陵町におけるくつ下の歴史や製造工程について学び、くつ下の製造工場や仕上げ所の見学、立山会館、菅原神社のだんじり、三吉石塚古墳を巡るウォークでした。

くつ下の製造工程の見学では、サントユニット株式会社の協力で機械化されたくつ下の製造工程の説明を受け、ほとんどの参加者は初めて見るくつ下の製造に感激しておられました。



続いて、くつ下仕上げ工程の見学では、堀本靴下仕上げ所の協力でジュラルミン製の型板にくつ下をはかせ、それにスチームを当てて形を整える作業を見せていただきました。



次に訪れた場所は、毎年8月24日に大垣区内で行われている立山まつりのメイン会場となる立山会館で、文化財ガイドの方にその歴史と伝統文化を後世に伝える大切さを教えていただきました。立山とは、その年に話題となった出来事や有名になった人物を取り上げ、面白おかしく飾り付け人々に話題を提供するものです。

次の場所は、赤部区の菅原神社で、毎年10月中旬の土曜日に行われるだんじり祭りが有名で、神社に参拝するとともに勇壮なだんじりも見せていただきました。



その後、図書館に戻る前に古墳時代中期後半に築かれた帆立貝式古墳の三吉石塚古墳に上り記念写真を撮りました。

最後に、参加者には見学に協力いただいたサントユニットさんと



堀本靴下仕上げ所さんのご厚意でペットボトルカバーをいただくとともに例年のように、缶バッジのお土産もあり、参加された多くの方々はとても楽しそうに満足した表情で帰っていただきました。